

【連載24】
新・着・資・料・紹・介

CIVICS市民立法3

市民自治体 社会発展の可能性

須田春海 著

東京自治研究センター副理事長

株式会社刊 A5判変型88頁

定価800円+税



はじめに 日本はどこに向かうのか？

第1章 急速に「陳腐化」する既成「地方自治体」

国・官の混迷状態

「国家」ミニマムの功罪／官吏に甘んじる「地方公共団体」職員／「半納税国家」の崩壊？

市民ニーズとの乖離

人びとの多様性に追いつけない／公共性の変容に「抵抗」する／新たな事態への対応能力を失っている

自治体社会基盤の衰弱

人が減っていく社会／仕事をつくりだせない社会／合併症候群がもたらすもの

第2章 市民自治体の構想

顔を見せはじめた市民社会

「希望のトライアングル社会」の形成／自己決定と社会発展の可能性／「公共の福祉」から「市民の福祉」へ

はじまっている「市民自治体」づくり

市民自治体と憲法の論点／「自治体をつくる」ということ／廃置分合処分から自治体設立へ

市民自治体のポイント

市民+自治体／「最初の政府」としての覚悟／市民社会のルールを受け入れる

第3章 市民自治体への転換プロセス

市民ポートフォリオが最適社会を準備する

露を払い溝を埋める作業—無関心と亀裂／思いやりと社会の価値—格差と差別／市民財の自主配分が決定打

自治体が「民主主義更新の場」になる

直接民主主義の原理をいかす／社会的合意形成への努力／アジア合衆都市連合の実現

コミュニティ・ワークの実践

決定的に不足するコミュニティ・サービス／「市民労働」が生活を豊かにする／コミュニティ・ワークのコスト負担

まとめの章 リーディング役・市民シンクタンク